1. ため池とハザードマップについて

ため池について

●ため池とは

ため池とは、降水量が少なく、流域の大きな河川に恵まれない地域などで、農業用水を確保するために水を貯え取水ができるよう、人工的に造成された池のことです。

広島県内には約2万箇所の農業用ため池があり、その数は、 兵庫県に次いで全国第2位のため池数を有しています。

谷池

山間や丘陵地で谷をせき止め て造られたため池



皿池

平地の窪地の周囲に堤体を築 いて造られたため池



重ね (親子) 池

棚状に複数のため池が連なっ ているため池

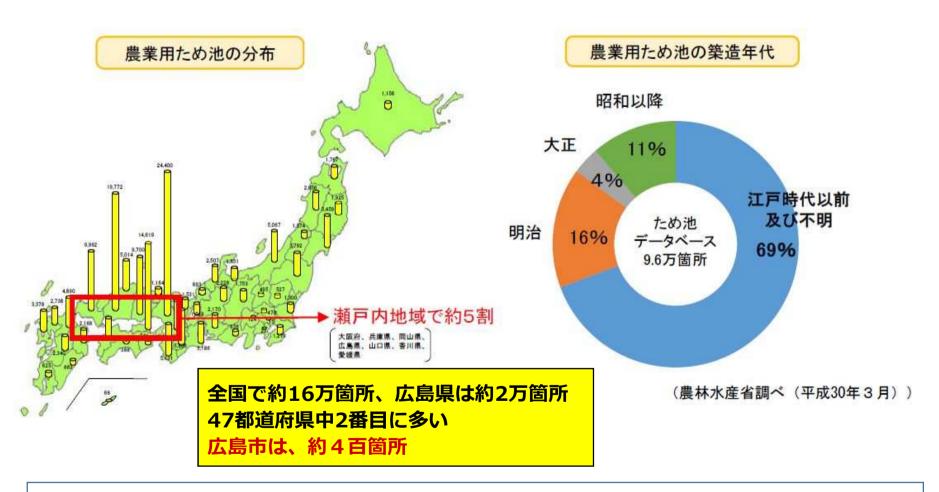


出典: https://nourin.pref.hiroshima.lg.jp/pref-hiroshima-gakusyu/tameike/

ため池の現状

● 全国のため池分布状況

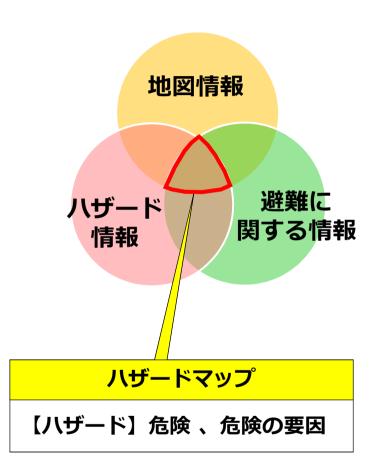
● ため池の築造年代



出典:農業用ため池の管理及び保全に関する法律の概要(令和元年6月)内閣府

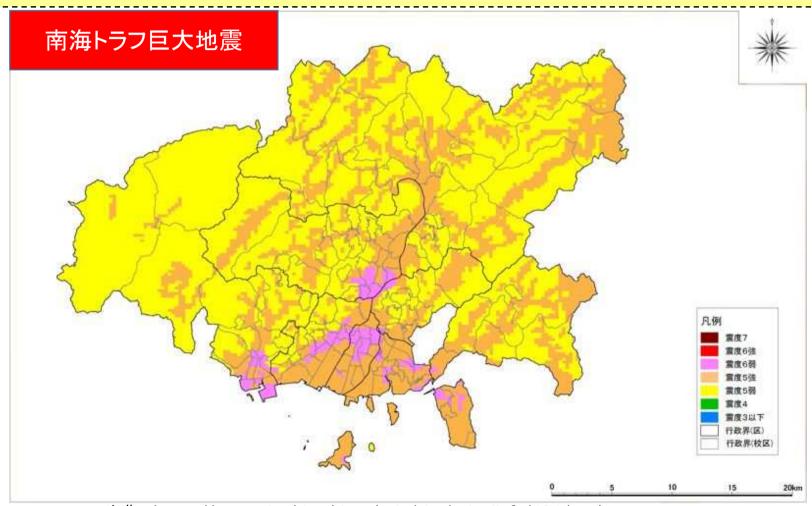
ハザードマップとは

- 今後発生の予測される自然災害 について、その被害の及ぶ範囲、 被害の程度、避難場所などを示 した災害予測図。
- ▶ため池、地震、津波、高潮、河川の 氾濫、土砂災害、火山噴火など、災 害の種類に応じたハザードマップ (災害予測図)を行政が作成してい ます。



ため池ハザードマップ作成の目的①

●大規模地震発生のおそれ⇒予想は困難、未知の断層



出典: https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/saigaiinfo/484.html

ため池ハザードマップ作成の目的②

●気候変動による集中豪雨の頻発

⇒天気予報で予測し、水位を下げる等対策

6.0

5.0

40

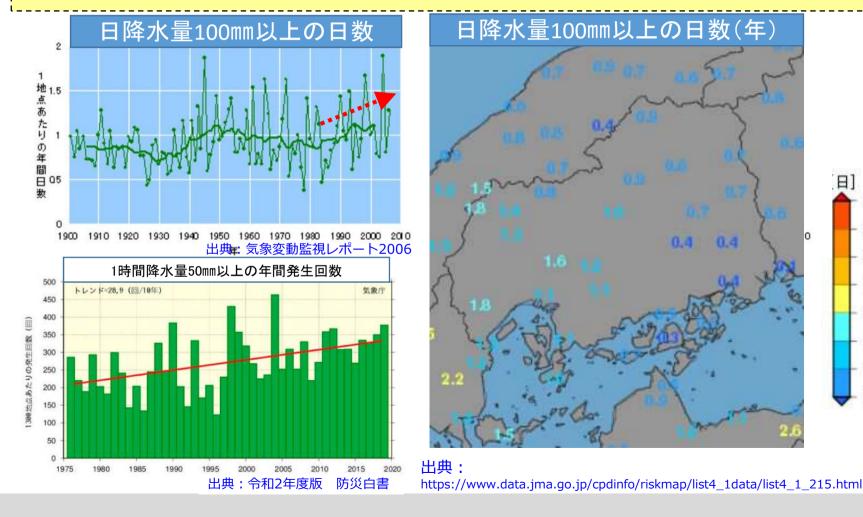
3.0

20

1.5

1.0

0.5



ため池ハザードマップ作成の目的③

●ため池改修などのハード対策の限界

⇒時間と莫大な費用、権利者関係、想定外の事態

ため池の防災・減災の施策体系

〇ため池は全国に約20万か所存在。受益面積2ha以上のものは約6.3万か所あり、約70%は江戸時代以前に築造。 〇決壊した場合に下流域への影響が大きい防災重点ため池(約0.9万か所)を優先して、防災・減災対策を総合的に推進。

~土地改良長期計画(平成24年3月閣議決定)~

政策目標:ハード・ソフトー体となった総合的な災害対策の推進による災害に強い農村社会の形成

- ・老朽化や地震によって損壊のおそれのあるため池の整備 約1 300か所
- ・ハザードマップの作成などの減災対策を実施するため池 約2.300か所

国土強靱化基本法案(大規模災害の未然防止・被害拡大の防止) インフラ長寿命化基本計画(維持管理・更新の推准)

<防災対策>

一斉点検 H25~26

- ・堤体型式、形状、立地条件などから、 地震、豪雨に対する改修の緊急度を判定
- ・緊急度の高いものを優先して対策を実施



耐震対策

調・レベル1の耐震照査 · レベル2の耐震照査

(推計震度6弱以上で堤 查 高10m、貯水量10万m³以

液状化対策などを

実施

豪雨対策

堤体漏水量 変形等 の調査

・洪水叶、取水施設の 能力把握

整・堤体の改修・補強、・堤体、洪水吐、取水 施設などを改修

<減災対策>

ハザードマップの整備

- ・以下のツールを活用し、下流域に与える 影響が大きいものを優先して作成し公表。
- 口ため池ハザードマップ作成の手引き (H25.5) 口ため池簡易氾濫解析ソフト

洪水調整機能賦与及び事前放流

洪水調整機能の賦与

下流域の湛水被害や利水状況から空き容 量を洪水調整機能として活用する取組を 推准。

事前放流

・洪水や豪雨に備えて、設計洪水流下能力 を有していないものを優先して事前放流 や低水位管理を行う取組を推進。

く保全・管理対策>

保全管理体制整備

地域による継続的な保全管理、防災 力の向上に向けた取組を強化。

保全管理体制整備

- 市町村と施設管理者(組織)との間 で保全管理に係る協定を締結。
- 協定に基づく保全管理活動を多面的 機能支払交付金と連携して実施。 (施設管理者+地域住民等)

外部支援体制の構築

都道府県レベルで専門技術者を育成 し、地域の保全管理活動をサポート。

情報連絡体制整備

- 洪水に対する備えや地震の発生などの 対応を迅速に行うため、情報連絡体制 の整備を推進。
- ため池DBハザードマップを活用し、 気象予測や豪雨による危険度など防災 情報を自治体へ提供。

ハード・ソフトー体となった総合的な対策を推進し、災害に強い農村社会を形成